

令和5年度
江戸川区学校応援団
実践報告書

【中学校】

令和6年3月
江戸川区教育委員会

目 次

小松川中学校	• • • • • • • • • •	P 1
小松川第二中学校	• • • • • • • • • •	P 3
小松江第一中学校	• • • • • • • • • •	P 5
小松江第二中学校	• • • • • • • • • •	P 7
小松江第三中学校	• • • • • • • • • •	P 9
小松江第四中学校	• • • • • • • • • •	P11
小松江第五中学校	• • • • • • • • • •	P13
小松江第六中学校	• • • • • • • • • •	P15
二之江中学校	• • • • • • • • • •	P17
葛西中学校	• • • • • • • • • •	P19
葛西第二中学校	• • • • • • • • • •	P21
葛西第三中学校	• • • • • • • • • •	P23
南葛西中学校	• • • • • • • • • •	P25
南葛西第二中学校	• • • • • • • • • •	P27
西葛西中学校	• • • • • • • • • •	P29
東葛西中学校	• • • • • • • • • •	P31
清新第一中学校	• • • • • • • • • •	P33
清新第二中学校	• • • • • • • • • •	P35
瑞江中学校	• • • • • • • • • •	P37
瑞江第二中学校	• • • • • • • • • •	P39
瑞江第三中学校	• • • • • • • • • •	P41
春江中学校	• • • • • • • • • •	P43
鹿本中学校	• • • • • • • • • •	P45
鹿骨中学校	• • • • • • • • • •	P48
篠崎中学校	• • • • • • • • • •	P50
篠崎第二中学校	• • • • • • • • • •	P52
小岩第一中学校	• • • • • • • • • •	P54
小岩第二中学校	• • • • • • • • • •	P56
小岩第三中学校	• • • • • • • • • •	P58
小岩第四中学校	• • • • • • • • • •	P60
小岩第五中学校	• • • • • • • • • •	P62
上一色中学校	• • • • • • • • • •	P64

小松川中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

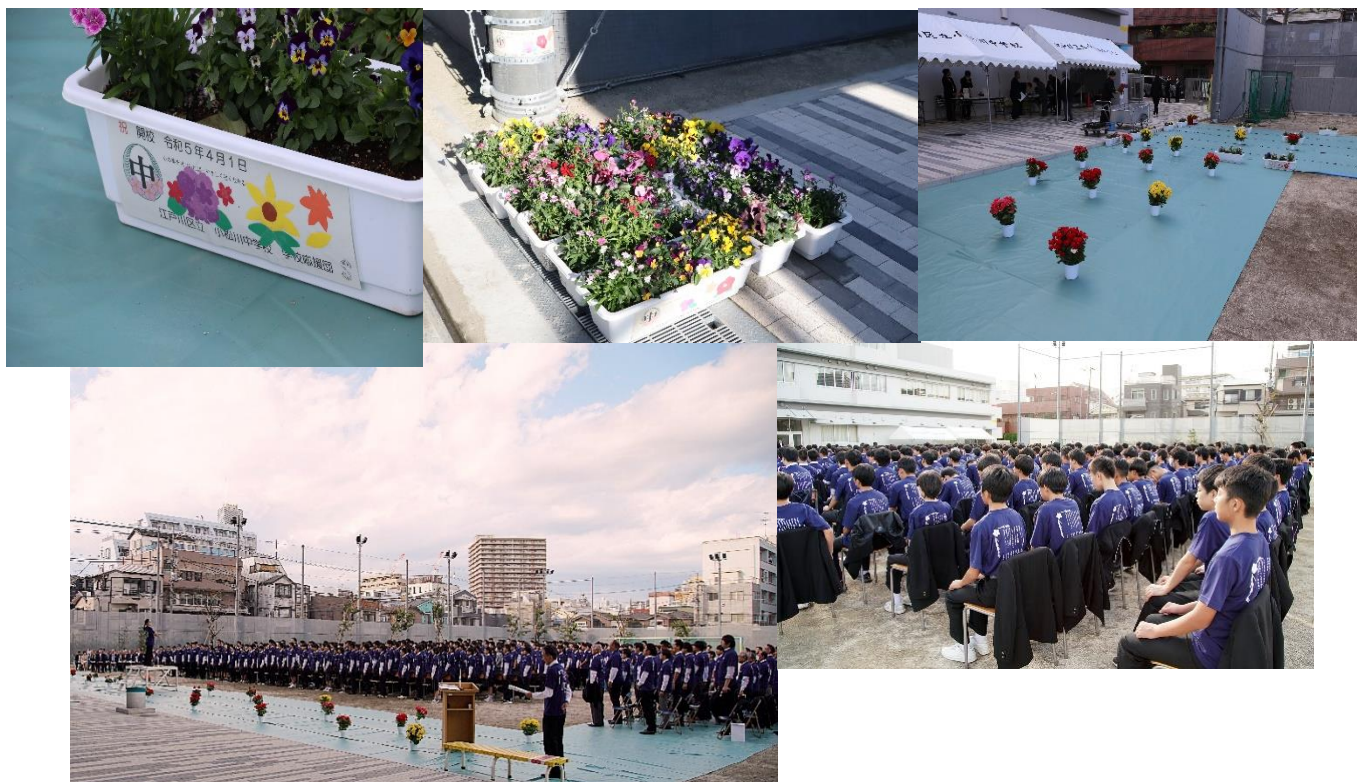
小松川中学校長 折橋 信二
コーディネーター 鹿倉 勇

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備・安全指導	不定期（花壇整備）	0人
展示発表会補助	不定期（運営補助）	20人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度、小松川中学校が開校し、小松川・平井地区の多くの方々にご協力をいただきながら10月21日に開校記念式典を盛大に実施することができました。学校応援団の費用を活用して、校舎周りの花壇に多くの花を植え、プランターに入れた花は、開校記念式典の会場に飾りました。晴天の中、彩を与えまさに華やかな開校記念式典となりました。また、第1回展示発表会では、ボランティアの方々に運営に携わっていただくなど、地域の中の小松川中学校として、よいスタートが切れたことが一番の大きな成果です。

<課 題>

コロナウイルス感染症の拡大が落ち着いてきたとはいえ、今後も予想される感染拡大による持続可能な実施が課題である。また、地域にお住いの方々に新しい学校としてどのような方に協力をいただくか、小松川第一中学校と小松川第三中学校で協力いただいていた方々の世代交代など、人員を今後どのように確保していくかも大きな課題である。

5 コーディネーターより

本校学校評議員兼コーディネーターを務めさせていただいております。地元の人間として、学校、家庭、地域をつないできました。今年度は小松川中学校が新たに開校し、真新しい校舎で生徒の皆さんが、気持ちよく伸び伸びと学べることはとてもうれしく思います。

学校応援団コーディネーターとして「やれることから」をスローガンに活動していきたいと考えています。生徒、PTA、各町会、地位の事業所などと協力し、小松川・平井地区にある学校として、小松川中学校を陰ながらサポートできたらと考えています。

6 学校長より

令和5年度、本校は伝統ある小松川第一中学校と小松川第三中学校、そして小松川第二中学校夜間学級が統合し、小松川中学校として開校いたしました。私としては、「通常学級、特別支援学級、夜間学級」が、どの学級も同等で生徒も教職員も互いにそれぞれの教育活動を尊重した体制をつくり、新しい学校の文化・伝統の創造をキーワードとして考えております。

時代の流れや社会の変化に対応し、生徒・保護者・地域の方々の願いを受け止め、生徒第一主義の学校づくりを行います。この、伝統深い小松川平井地区で健全に育つ子どもたちを、地域の方々と一体となって熱く、温かく育てていきたいと考えております。

本校では生徒たちにボランティア活動を推進しています。小松川平井地区大運動会、社会を明るくする運動、小松川平井地区マラソン大会など、コロナウイルス感染症の制限も緩和され多くの生徒が地域主催のボランティアに積極的に参加しました。

ボランティアを通して、本校の生徒がさらに小松川・平井の地域や本校を愛し、地域に貢献することのできる大人へと成長することを願ってやみません。

今後ともよろしく願いいたします。

小松川第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川第二中学校長 清水 秀登
コーディネーター 村上 則俊

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	60人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校行事協力	不定期	40人
環境整備	不定期	20人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

毎年、本校の教育活動全般を学校応援団活動によりバックアップしていただいています。その中でも本校の二大行事である運動会、文化祭等の大きな行事の運営に御尽力いただいています。今年度は運動会を保護者の閲覧人数制限なしに、文化祭を希望者に閲覧いただき、応援団の方々にもご協力いただくことができました。文化祭では、ティアラこうとう大ホールで合唱コンクールを行う等、地域の方のご協力なしには実現できませんでした。また、今年度は「花いっぱい運動」に当選し、学校応援団のご協力を得て、チューリップなど多くの球根を植樹することができました。教育活動へのご協力、誠にありがとうございます。

<課 題>

新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、少しずつ例年の活動に近付けようと活動しました。そのような中で、学校応援団の活動の多くをまだまだ学校の教員やPTA本部役員の方々をお願いしており、多大なる御負担をおかけしています。そのような中で、「花いっぱい運動」へのご協力も含め、より多くの方々に学校応援団活動を知っていただくため、さらなる広報活動を行う必要があると考えます。

5 コーディネーターより

今年度は、昨年度以上に学校行事が通常に戻りつつあるので、新型コロナウイルス感染症拡大以前の形に活動を近付け、学校運営に貢献することができました。そして、校内の消毒活動や環境美化など生徒の安心安全のために活動をしてきました。今後もさらに多くの方々に御協力いただくため、機会を見て宣伝や勧誘を行い、いろいろな分野で学校の教育活動を応援していきたいと考えております。

6 学校長より

本校の教育目標である、「生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校」の実現のため、本校の教育活動に御協力、御尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。今年度も学校応援団の皆様のご協力を得て、充実した教育活動を行うことができました。今後も引き続き御支援、御協力をよろしく願いいたします。

松江第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第一中学校長 山岸 健
 コーディネーター 中里 義雄

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	80人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書室 整理・管理支援	毎週水曜日を基本とする	20人
行事支援（蓮の植え）	1学期（不定期、今年度は4/29）	40人
行事支援（蓮の収穫祭）	2学期（不定期、今年度は11/23）	60人
蓮田の管理支援	毎週（不定期）	1人

【保護者・PTA・家庭】

- ・図書室整備・放課後開室
- ・運動会・合唱コン受付
- ・学校公開受付
- ・地域パトロール

【地域町会の方々】

【松江会（同窓会）】

【学校評議員】

- ・五校協議会
- ・夏季地域パトロール
- ・地域行事（お祭り、運動会等）

蓮の植え 蓮の収穫祭

【学校】

- ・職場体験
- ・学校行事
- ・小中連携



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・例年通り学校応援団（松江会（同窓会）、PTA、地域）の方々と協力して、蓮池の維持管理と
 植え、収穫祭の行事を実施することができた。特に収穫祭は、コロナ5類移行に伴い、多く
 の方々に参加いただきコロナ前の規模に近い形で実施することができた。
- ・保護者の方による学校図書館ボランティア活動が組織され11年目となった。
 学校の行事や時程の連絡を担当の方から連絡をとりながら、開館することができた。

<課 題>

- ・各種活動の広報・周知活動を充実させ、より多くの方々にご協力いただくこと。
- ・学校応援団の安定した人員の確保をすること。

5 コーディネーターより

第31代PTA会長の中里です。コーディネーター12年目になります。今年度は新型コロナウイルス5類移行に伴い、「蓮の植え、収穫祭」はその活動に大きな制約をすることなく実施することができました。学校評議員、PTA、地域の方、松江会（同窓会）のご支援、さらに、ボランティアさんの協力のもと、4月29日（土）昭和の日に蓮植え、11月23日（木）勤労感謝の日に蓮の収穫祭を実施しました。収穫祭では約30kgの蓮を収穫することができました。来年度も引き続き実施していきたいと思います。また、保護者のご協力による学校図書館ボランティア活動が定着し、毎週水曜日に図書室の開館ができるようになりました。これからも学校評議員、PTA、地域の方、松江会（同窓会）の方々と協力して、松江一中のためにできることに積極的に取り組んでいきたいと思います。

6 学校長より

本校では、学校応援団発足以前より学校評議員、PTA、地域の方、松江会（同窓会）をはじめ多くの方から様々なお支援をいただきました。その中で特に地域の方、PTA、学校をつなぐ大切な要となっているのは、蓮関連の行事です。生徒たちには江戸川区の特産品であった蓮根を身近に感じてもらいたいとの思いから、松江会（同窓会）のたゆまぬご協力をいただき脈々と引き継がれてきました。この活動は今後も継続していきます。このような、子どもたちが地域に見守られ育っていく姿、地域・保護者・学校が共に子どもたちを育てていく姿は日本型教育の理想であると考えます。そしてこの松江地区には、その土壌が育まれております。今後とも本校の教育活動にご理解とご協力のほどをよろしくお願いします。

松江第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第二中学校長 鈴木 啓之
コーディネーター 関 和典

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	9人
	学生ボランティア	15人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
あいさつ運動	毎月1回 水曜日 8:00~	各7~9人
花壇づくり	11月26日(土) 10:00~12:00	15人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年の学校応援団の活動は、毎月1回のあいさつ運動と春、秋の花壇づくりを実施しました。

あいさつ運動は、PTAの校外委員の保護者の皆様と連携して一緒に実施しました。地域の方々
と保護者の方々の温かい声掛けにより、生徒たちは笑顔で登校でき、挨拶を交わしていました。朝
の登校時に足を運んでいただくことで、登校に活気が出て、とても効果のある取り組みとなってい
ました。

花壇づくりは、学校応援団の方々と生徒会及び園芸ボランティア部の生徒達がそれぞれ4グルー
プに分かれ、パンジーやビオラ、ガザニア、スノーポール、プリムラジュリアン、ペゴニア、葉ボ
タンなど、多くの花を花壇に植えました。学校応援団の方と生徒が相談しながら花の配置や配色を
考えたり、土を耕したりしました。また、学校生活についてや地域について、学校応援団の方とコ
ミュニケーションをとりながら活動をすることができ、生徒にとって大きな刺激となりました。

地域の方々と交流を深めながら一緒に一つのことを成し遂げる活動があることはとても良い機
会で、生徒にとっても、地域の方々にとってもココロが豊かになる活動となりました。今後もこの
ような機会を増やし、続けていきたいと思えます。

<課 題>

今年度の学校応援団の課題として挙げられることは次の2つです。

- ① 活動内容については、生徒会が主体で行っている落ち葉掃き(クリーンアッププロジェクト)
やユニセフ募金などを学校応援団と連携することができるため、学校活動と地域活動の融合
を図ることが課題である。
- ② 学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子供を育てるために、より多くのボランティ
アを募ることが課題である。

5 コーディネーターより

松江第二中学校学校応援団コーディネーターの関です。今年は、朝の挨拶運動で大きな声を出して挨拶
ができ、生徒たちの元気な声を聴くことができました。

4月と11月の花壇づくりは、学校で季節に応じてビオラやスノーポールなど様々な球根や苗を
準備していただきました。副校長先生や武田先生をはじめ、生徒会役員、園芸ボランティア部員の
参加と協力により、約2時間に渡り、生徒とわきあいあいと花植えができました。学校応援団員達
は、今後の開花を楽しみにしています。

今年度も3年生の面接練習、茶道教室が中止となりましたが、このような応援団の活動に関わっ
た子供たちの成長していく姿を見るのがとても嬉しく思います。今後とも良い学校づくりに携わ
っていききたいと思えます。

6 学校長より

松江第二中学校学校応援団は、学校、家庭、地域が一体となり、地域ぐるみで子供を育てる体制
を整備することを目的として、平成23年度に結成されました。今年度は感染状況も落ち着き、コ
ーディネーターの関さんを中心に、あいさつ運動や花壇づくりを実施しました。学校応援団の方々と
生徒と保護者の方が一緒に活動することは、健全育成を促す上でとても貴重な体験となります。今
後も、学校応援団の方々のご協力をいただきながら、より多くの活動を行っていききたいと思えます。

松江第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第三中学校 校長 大久保 和彦
コーディネーター 上野 康雄

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
登下校巡回見回り	不定期	10人
行事支援（体育祭案内）	不定期	20人
行事支援（合唱コン受付）	不定期	20人

<学校応援団感謝状贈呈>

平成30年度、11月1日の東京都教育の日に、平成30年度学校活動支援団体に対する感謝状贈呈式において、地域における児童・生徒の育成活動部門で、本校の学校応援団団長、上野康雄様が感謝状を頂きました。これからも学校応援団、OB会の方々の活動支援を賜りますようよろしくお願い致します。

<地域防災>

毎年消防署の方を招き、保護者や地域の方々に参加していただく訓練です。今年度はB-V Rの授業・平担架搬送体験・煙体験をおこないました。災害時の対応や防災について考える良い機会となっています。また、令和4年度に東四町会から寄贈していただいた防災用ヘルメットは今後も有効に活用していきます。

来年度も、学校応援団を含めた地域の方々にたくさん参加し、体験して頂けたらと思います。





<花壇及び菜園>

27年度より花壇を作り菜園として手入れをし、色々な作物を育てています。また、六年前から「耕運機」を稼働させ、耕す時間が大幅に減少できています。花壇隣には防災井戸も完成し、今後の水やりに活用していきます。

4 今年度の成果と課題

<成 果>

○花壇と菜園は、地域の方や園芸関係の方から手ほどきを受け、徐々に成果を出していくことが課題です。次回の挑戦は「馬鈴薯」を収穫することです。他の作物の収穫も目指した取り組みをします。数年後に松三中産の収穫物をお見せすることが出来るようにしていきます。ここ数年は、花壇の周囲を整備するために、青竹を購入し竹垣を作っています。

○令和4年度はコロナ禍のため、様々な地域行事が中止になりましたが、今年度は、中央地域祭りをはじめ、区民まつりで肩こり直し隊、地域小学校夏祭り、地域大運動会等において多くの本校生徒が進んでボランティア活動に参加しました。

<課 題>

○学校応援団、OB会の方々は、お仕事をもちつつ学校への協力ということでお忙しい時間のやりくりをして頂く中、どう時間を捻出し、効果的に色々な取組みにしていくかを考えていきたいと思えます。

5 コーディネーターより

学校応援団として、祭礼パトロール、三中フェスティバルへの協力、菜園の定期的な管理をしてきましたが、平成30年度に東京都教育委員会より学校活動支援団体に対する感謝状を頂くことができました。校長先生からは「何かあったときに助けてくれる学校応援団でいてください。」という言葉をいただいておりますので、これからも、松江三中の生徒たちを見守り、先生方やPTA（現在、活動休止中）からの要請があればいつでも協力できる体制を整えています。

今後も活動内容を工夫しながら「松江三中の生徒たちに見てもらえ、参加してもらえ」活動を目指していきたいと思えます。

6 学校長より

昨年度から少しずつ感染対策を万全にし、様々な工夫をして体育祭や合唱コンクール、修学旅行や林間学校を実施してきましたが、今年からはそれに加え、地域のお祭りや大運動会のボランティア活動に生徒が参加することができました。学校応援団の方には、本校の教育活動を様々な側面からご支援いただきながら、生徒たちを地域で見守っていただきました。

常に思うことですが、ほとんどの応援団の皆様がお仕事を持っていらっしゃる中にもかかわらず、いつも松江三中のために、と気にかけていただいております。本当に頭の下がる思いです。これからも生徒たちのために、本校教育活動にご協力いただきながら「何かあったときに助けてもらえる学校応援団」でいていただけるよう、心よりお願い申し上げます。

松江第四中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第四中学校長 鶴澤 伸一
 コーディネーター 富永 秀樹

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	15人
	学生ボランティア	0人

*生徒ボランティア 576人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
園芸整備	不定期	5人
校内池整備	不定期	10人
四中ステージ	10月	14人
清掃活動	12月	全校生徒

協同力 ～明日をつくる、人をつくる～



4 今年度の成果と課題

<成 果>

本校用務主事、教師、ボランティア生徒が協力して、校門付近の花壇の整備や清掃活動を行いました。公道を含む学校周辺の清掃活動に熱心に取り組む生徒の姿は、地域でも高い評価を受けています。また今年度も、正面玄関口にある池のメダカの飼育をボランティア生徒の活動として行いました。元PTA会長から頂いた「みゆきメダカ」の餌やりや、稚魚を別容器での飼育、池の清掃など、教師と生徒がかかわるがわるに面倒を見ています。そのおかげでメダカは大きく成長し、数も増えております。生徒もその成長を楽しみにしておりますし、来校者からもメダカの群れに感嘆の声があがります。認知度が高まっているこれらの活動、本校でも実践している持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みにつながっています。

更に10月には、学校応援団・PTAの協力により「四中ステージ」（ボランティア生徒を中心とする発表会）を行うことができました。今年度は生徒に限らず、保護者や地域の皆様、学校関係者にもご参観いただくことができました。

<課 題>

地域の行事が再開されるようになり、本校生徒も多数ボランティア等に関わっているなか、そうした地域行事と学校応援団を連携する仕組みを構築することが課題である。

5 コーディネーターより

学校の教育活動が充実するよう、PTAや地域の皆様のご協力を得て本年度も学校の応援活動を行いました。今後も関係する皆様と力を合わせて子どもたちを見守り、育てていくという方針の下、多くの保護者・地域の皆様からのご理解とご協力をいただきながら、生徒の成長につながる活動を進めてまいります。

ボランティア活動に積極的に取り組む生徒が多いので、地域行事と有機的に結びつけることに次年度以降特に注力していきたいと考えています。

6 学校長より

日頃より学校応援団の皆様の活動には心よりお礼申し上げます。これまで積み重ねてきた伝統を受け継ぐことができるのも、関係する多くの皆様のご支援のお陰です。

今年度は花壇や池の整備に加え、四中ステージでのボランティア活動も行うことができました。生徒にとっては貴重な経験を積むことができる機会となっており、お陰様で成長の一助となっております。

今後も応援くださいますようお願いいたします。

松江第五中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第五中学校長 荒巻 淳
 コーディネーター 牧島 孝行

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	34人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
夢を育む講演会	○年1回 令和6年3月11日(月) 「なかやまきんに君と一緒に筋トレ しませんか？」	30人(予定)
学校図書館の充実	○月1回	4人
地域貢献活動	○不定期	3人 (生徒100人)

4 今年度の成果と課題

<成 果>

夢を育む講演会では、なかやまきんに君を講師に迎えました。今回は事前に複数の講師候補者を示し、生徒たちの希望をきいたうえで講師を決定するという初めての試みを行いました。保護者の皆様にも限られたスペースではありましたが、できるだけ多くの方に参観していただきました。

学校図書館の充実では、ボランティアの地域の方に手伝っていただき、新規購入本の整備がほぼ終わっています。毎年学校として本を購入していますが、その整備はボランティアの皆さんが一手に担ってくれています。今後は委員会活動において本の貸し出しや返却をスムーズに行い、本の紛失を防いでいきます。

地域貢献活動では、コロナが五類に移行したことで活動範囲が広がり、生徒からボランティアを募り、様々な活動を実施することができました。特に校内清掃ボランティアは、夏休み終了前と冬休み終了前に行い、毎回100名近くの生徒たちが参加し、普段はなかなかできない箇所の清掃にじっくり取り組んでいます。

<課 題>

夢を育む講演会は毎回好評です。この講演会は生徒たちに計り知れない効果があると確信しています。今後も継続していきたいと考えています。

地域貢献活動では、地域の祭りやボランティア等に積極的な生徒が多いので、コロナ禍での活動自粛を乗り越え、より多くの生徒が地域に貢献できるようになってほしいと考えています。

5 コーディネーターより

学校応援団の活動として特に力を入れたのは「地域貢献活動」です。地域の小学校、中学校と高校が連携を図りながら地域の人々と関わっていくことはとても意義のあることだと考えます。

今年度は久しぶりに中央・一之江ふるさとまつりが実施され、生徒たちは来場者として楽しむだけでなく、運営ボランティアとしても大いに活躍しました。

学校を元気にして地域を支えながら、地域を活性化させ地域で暮らす人たちを結びつける活動をこれからも続けられるよう様々な機会をいかして取り組んでいきたいと思えます。

私は松江第五中学校の卒業生でもあり、母校の後輩でもある地域の子供たちの活躍を大いに期待しています。松江第五中学校を拠点として、地域のきずなが強く太いものになることを願っています。

6 学校長より

本校の特色ある教育の1つに「たちばなマインドの推進」があります。“たちばなマインド”というキーワードを合言葉にして、自他のよさを集団や社会の中で生かそうとする自主的な実践活動の推進です。各町会では「たちばなマインド」が浸透し、多くの生徒が地域の中で活躍できるようになりました。これからも地域の皆様方の期待に応えるために、そして子供たちの「ふるさと」を継承していくために、学校応援団のお力をお借りしながら生徒一人一人の成長と松江五中のさらなる発展を図ってまいります。これからも応援をよろしくお願いいたします。

松江第六中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第六中学校長 小野満 賢
コーディネーター 平田 光男

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備	不定期	10人
花植え運動	不定期	5人
朝のあいさつ運動	毎朝	1人
六中まつり	不定期	20人



六中まつりの様子



朝のあいさつ運動

4 今年度の成果と課題

<成 果>

主な活動は、環境整備として校門近くの花壇の花植え、シンボルの池の掃除、そして朝のあいさつ運動でした。経年劣化による池の修復に際しては、地域から区へ依頼する流れで6月に実施が完了し、生物が戻ってくる環境となりました。今年度、10月の六中まつりは地域の小学生を招待し、4年ぶりに敷地内での飲食可能な形式で開催することができ、11月の五町会防災訓練・避難訓練も4年ぶりに町会の方々も参加する形式で実施することができました。六中まつりでは、どのような形式であれば安全に開催が可能かを重ねて検討し、当日は生徒・児童が楽しく過ごせる時間を作り出すことができました。このことは、本校生徒が今まで地域の方々と一緒にボランティア活動に参加してきたことが活かされた結果だと思えます。

<課 題>

今年度は昨年度に引き続き応援団の方と生徒と一緒に活動することがなかったので、来年度はこれまでの取り組みを引き継いでいくためにも、六中まつりや五町会合同防災訓練・避難訓練の実施に向けて生徒が学校応援団や地域の方と触れ合いながら取り組める内容について検討することが必要です。また、生徒会を中心としたボランティア活動などに学校応援団の方々に関わっていただけるものがないか考えていくことも課題です。

5 コーディネーターより

学校応援団のコーディネーターとして今年も、思うような活動ができませんでした。新型コロナウイルス感染防止のために長年積み重ねてきた行事ができなくなり、私達だけでなく子供たちが辛い思いをしていることに大変歯がゆい思いをいたしておりました。しかし、そんな中でも環境活動として花壇の花植えや池の掃除ができてよかったと思えます。また、六中まつりを4年ぶりに飲食可能な形式で開催できたことが応援団として今年の大きな成果でした。

子供たちは将来地域を支える大切な人材です。今後も学校応援団の活動をとおして、松江第六中学校を支援してまいりたいと思っております。

6 学校長より

将来の地域の担い手の育成ということで、例年、学校応援団の皆様には松江六中の教育環境の整備を行っていただくとともに、地域の行事にも本校ボランティア生徒を参加させていただくなど、学校と地域の橋渡しを積極的にさせていただいております。しかし、今年よりコロナ禍以前の状況に戻りつつある地域行事に、定期考査などの日程の都合が合わず生徒の参加が引き続き難しかったため、学校の環境整備と朝のあいさつ運動を中心に活動を行っていただきました。また、学校行事へのご招待もなかなかできず、学校の様子を直接ご参観いただけない状況にもかかわらず、これまでと変わらぬご理解・ご協力を賜り心より感謝申し上げます。今後も引き続き本校へのご支援・ご指導をよろしく願いいたします。

二之江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

二之江中学校長 茅原 直樹
コーディネーター 岩倉 久芳

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	70人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
二之江中を愛し育てる会	標語の顕彰（各学期1回） 環境整備（不定期）	25人
検定委員会	英語・漢字・数学検定の申し込みや 試験監督（英語3回、漢字2回、数学1回）	30人
図書館ボランティア	図書の整理と図書室の装飾	3人
学習指導	エンカレッジルームに来る生徒の 学習指導（毎週水曜）	1人
花のある学校づくり	栽培活動（不定期）	3人



英語・漢字・数学検定
(英語3回、漢字2回、数学1回)

4 今年度の成果と課題

<成 果>

- 今年度の検定委員会もスタッフを英語検定担当、漢字検定担当、数学検定担当と分担し、スタッフの負担を軽減しつつ、1学期は、英語・漢字の2つの検定を行い、2学期は英語・数学の2つの検定を、3学期は、英語・漢字の2つの検定を行う予定である。
- 今年もエンカレッジルームに来る生徒に対して学習指導を行うことができた。スタッフは引き続き、都の人材バンクの紹介をお願いしている。来年度も継続してお願いする予定である。
- 二之江中を愛し育てる会の活動は計画どおり実施でき、顕彰作品への生徒の応募も例年通り多く、会の方も喜んでいる。

<課 題>

- 検定委員会のメンバーが新年度に入れ替わる際に、仕事の手順等の引き継ぎを確実に行っていく。
- エンカレッジルームの学習支援は、スタッフの継続ができそうなので、引き続き依頼し、発展させる。
- 二之江中を愛し育てる会は、標語の顕彰を中心に様々なことに対して応援してくださる。来年度以降も引き続き応援していただけるよう良好な関係を築いていく。
- これまで培ったノウハウが途絶えることのないようにしていく。

5 コーディネーターより

新型コロナ感染が明けて1年間有意義な活動を送れる年となりました。皆様には二之江中学校を応援していただき感謝いたします。さて、「子どもたちのために大人は何ができるのか？」これが教育の原点と考えております。このことを念頭に置き、皆様の協力を得て、三者の橋渡しをしていきたいと思っております。今後とも、二之江中学校を応援するため、皆様のご支援・ご協力をよろしく願いいたします。

6 学校長より

本校の学校応援団の原点は、開校当時から歴代PTA役員によって構成される「三江会」や平成12年に発足した「二之江中を愛し育てる会」にさかのぼることができる。それらが発足した当時の地域の方々が二之江中学校に寄せる思いは、切実なものがあったと聞いている。以来、子どもたちの健全な成長に学校と地域の皆様が協力し合って取り組むことができています。

本校の学校応援団の活動は、多くの皆様のご理解・ご協力により順調に活動している。今後とも、子どもたちのかけがえのない中学校生活3年間でより充実したものとなるよう、学校応援団の皆様のご支援をよろしく願いしたい。

葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西中学校長 内野 雅晶
コーディネーター 土田 知美

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	25人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
防災ボランティア	9月2日	15人ほど
図書館整理ボランティア	週1回(毎週水曜日)	10人ほど
図書館清掃ボランティア	7月21日、12月6日 3月2日	各回5人ほど



防災ボランティア



図書館清掃ボランティア

4 今年度の成果と課題

<成 果>

○今年度は、感染症対策による行事等の縮小もなくなり、コロナ禍以前の内容にほぼ戻した1年でした。その中で、学校応援団の活動は、例年通り「図書館整理ボランティア」「図書館清掃ボランティア」「防災ボランティア」を実施することができました。特に「防災ボランティア」は昨年度の課題を踏まえ、さらに参加者が意欲的に参加できる内容に発展させることができました。「図書館清掃ボランティア」は学校応援団のメンバーも運営の仕方に慣れ、スムーズに実施することができました。学校図書館が使いやすく、大変きれいに整理されているのは、学校応援団の賜物であります。次年度以降も、同様に実施できたらと考えています。

<課 題>

○「図書館清掃ボランティア」に関しては、企画、実施することが慣れ、昨年度以上に活動は円滑になっています。しかし、ボランティアの参加者の減少のため、同様に実施していくためには、ボランティアに協力していただける新しいメンバーを増やしていくことが大きな課題であります。

5 コーディネーターより

○年間を通して、大きな問題もなく、教職員や生徒と協力し活動できたことは有意義なことでした。特に「防災ボランティア」におきましては、かまどベンチを使って炊き出しを行い、皆でカレーライスを食べることができたことは素晴らしい経験になりました。この活動は、地域の皆様にも貢献できたと考えています。

○学校応援団の活動のさらなる推進のため、より多くの人に参加し関われるよう、活動を広げていく視点で、発信方法をさらに工夫していきたいと思っております。

6 学校長より

○学校応援団コーディネーターの土田様をはじめ、「防災ボランティア」「図書ボランティア」の活動に携わった学校応援団の方々に、常日頃の活動について深く感謝申し上げます。「防災ボランティア」の方々のおかげで、学校の「防災教育」を昨年よりさらに充実したものにすることができました。また、「図書ボランティア」の皆様のおかげで、生徒が気持ちよく図書館を利用することができております。みなさまのお力添えで学校の円滑な運営ができております。今後とも、生徒の健全育成のためにご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

葛西第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西第二中学校長 植木 清
コーディネーター 福島 剛

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	8人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動予定

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
身近な地域を知る講演	年1回	1人
校内美化装飾活動	不定期	2人



4 今年度の成果と課題

<成果>

「身近な地域を知る講演」

令和4年度までは盆踊りや祭、地域運動会や防災訓練の中止が続き、生徒は地域の活動に参加できる機会が激減した。しかし、本年度は新型コロナウイルスの終息に伴い、多くの地域行事が復活することとなった。生徒たちは本来このような地域行事をとおして、地域の歴史や人々の想いに触れ、地域愛を深めていくものだと考えるため、是非多くの生徒たちが地域行事に参加する意欲を向上させてもらいたいと、本計画を実施した。

本校の卒業生であり、本地域で活躍されている方を招いて、地域の歴史や地域愛についてお話しいただくことで、本年度まで機会を失った生徒たちに、地域行事に参加する大切さや意義を伝えることができたと考える。講演以降に実施された地域行事にボランティアなどで参加する生徒が多く現れた。生徒の多くが卒業後も地域貢献、社会貢献を含め活躍していくことにつながっていく一役を担えたと考える。

「校内美化装飾活動」

従来本校の校庭には緑が多くありました。4月から5月にかけては本校のシンボルでもあった藤の花が咲き、秋には銀杏やもみじの紅葉が見られました。その本校の樹木の一部が工事により伐採してしまうことになりました。そこで、少しでも植物とふれあい、豊かな気持ちを育めるように、本校の部活動と学校応援団のタイアップにより、生け花などをはじめとする緑を校舎内に生けることとなった。

来賓用玄関にある生徒たちが生けた花たちは、来校された方々を温かく迎えてくれています。また、季節感もあり、生徒の豊かな教育活動に実践において効果的であると考える。

<課 題>

- ・学校校舎改築工事により、現在まで実践してきた内容を見つめなおす必要性があった。学校応援団事業をとおり、制限のある環境においても効果的な実践を模索していく必要がある。
- ・学校応援団の活動については充実を図ることも大切であるが、教員の働き方改革も推進しながら、既存の活動を工夫し、よりよいものにしていくとともに新たな活動を模索し、より充実した教育環境の整備を目指す。そのためにPTA・地域の方々に広く呼びかけ新たな人材の確保に努める。

5 コーディネーターより

本校における学校応援団の活動は内容を変化させていくものの、引き続き現PTA本部役員やOB、そして同窓会、町会や地域の皆様といった本校とかかわりのある方々にご参加いただく形で活動していきたい。

従来から変わらずにご支援いただいている皆様には深く感謝申し上げますとともに、来年度も引き続き葛西二中へのご協力をいただけますようお願い申し上げます。

6 学校長より

学校応援団の活動を通して、PTAを中心とする保護者の皆様や、町会や地域の皆様、同窓会、PTA、OB会、卒業生といった多くの皆様に応援団協力者として教育活動へのご支援・ご協力をいただき、成果を上げてまいりました。

本年度は新型コロナウイルスに対する規制が緩和し、従来実施して内容に取り組みたい思いもありましたが、校舎改築工事のため再び新たな企画に挑戦することとなりました。これまで本校のためにご尽力いただいた皆様には心より感謝申し上げますとともに、今後も葛西第二中学校にご支援・ご協力のほどよろしく願いいたします。

葛西第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西第三中学校長 金澤 栄治
 コーディネーター 安次富 宏行

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	30人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備活動	不定期	5人
行事・周年行事支援	不定期	20人
部活動支援	不定期	5人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度は昨年と比べ、コロナ禍による活動の制限等は解消され、地域のボランティア活動は、毎学期行っている校外周辺一帯のボランティア清掃の実施に加え、地域の防犯活動や防災訓練、祭礼に参加するなど、充実した取組を行うことができました。奉仕活動に例年積極的に参加することを目標にしているため、今後も、町会の行事や近隣の施設の奉仕活動などがあれば積極的に参加するよう、生徒会活動とも連動させて呼びかけていきます。

生徒が校舎内外で安全で安心した学校生活を送れるよう、学校で、環境整備や学校行事・部活動の活性化に全力で取り組んでいますが、学校応援団の方々にも例年ご協力をいただいております。

特に今年度は、学校行事における運営や行事での地域パトロール、施設整備にご協力をいただき、運動会や合唱祭、各部活動の大会、発表会それぞれにおいて、優秀な成績を収めたり、実績を残すことができました。周年行事に関しては、各種委員会で会議を行い、学校評議員会やPTA活動と連携して準備・運営に携わっていただき、様々な記念事業を盛大に実施することができました。

地域の一員としていざというときに頼りになる存在として活躍できるよう学校でも指導していますが、地域の皆様にも生徒の健全育成にご協力をお願いしています。

<課 題>

コロナ禍以前の奉仕活動が徐々に実施されていますが、方法や環境が変化していることもあり、活動方法や方針、その目的等をしっかり理解した上で、参加できるボランティア活動を推奨し、自主的に参加していくよう働きかけ、生徒を支援していきたいと思っております。

今年度は開校 50 周年により、今まで継続して学校応援団に協力してくださる方に加え、さらに応援団の数が増えてきました。より一層充実した活動を行うことが可能となるよう、コーディネーターと学校とが協力し、学校行事・部活動支援、環境整備活動等、学校応援団の活動をより多くの人に周知し、活動の幅を広げたいと考えていますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。

5 コーディネーターより

ここ数年のコロナ禍の時期と比べ、学校応援団としての活動も徐々に協力できる機会や場が増えていくよう、活動方法を工夫し、学校と保護者・地域が一体となって子どもたちを育てていくというスタンスを続けていき、学校活動の充実と地域の活性化を目標にしています。

現代社会の中で学校活動においてサポートできることは何かを考え、可能な限り協力できる体制を整えて取り組み、応援団としての務めを果たしていきたいと考えています。これからも学校応援団の活動が地域に広がり、参加される方がさらに増え、活発な活動になっていくよう、全力で役割を遂行していきます。

6 学校長より

今年度は開校 50 周年の様々な記念事業で、学校応援団の方々にお力添えをいただき、記念式典や記念行事等を、無事にかつ盛大に終えることができました。本当にありがとうございました。

徐々にコロナ禍が収束に向かっていますが、まだまだインフルエンザ等の感染症は、流行が収まらず、模索しながらの学校経営となりましたが、昨年度までの教訓を生かし、感染症対策を徹底しての教育活動、学校行事に取り組みました。生徒たちは新たな伝統を創り上げようと、昨年度以上のもの、思い出に残るものとして自主的に活動し、本校の伝統を引き継ぐ活動が実施できました。と同時に自己肯定感も高められました。今後は、地域の方々や保護者への学校公開や、生徒との交流する機会をさらに増やしていき、生徒たちの生き生きと活躍する様子をお見せすることができるよう、引き続き学校応援団へのご理解・ご協力をお願いいたします。

南葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西中学校長 日野 志磨子
コーディネーター 八重樫 利雄

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	40人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花壇・農園整備	不定期	20人
ふれあい面接	1月11日、12日	20人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

本校は、「地域とつながる南葛西中学校」として、多くの保護者や地域住民の方に支えられながら学校運営を行っている。今年度も昨年度に引き続き、花壇や農園の整備をお願いした。花壇に植えられた花々が生徒の登下校を見守ってくれるとともに、学校に彩を添え、生徒や教職員の心の安らぎとなっている。

また、昨年度に引き続き、今年度も「地域ふれあい面接」を実施することができた。3年生を対象として2日間行い、受験の面接試験に向けて、多くのアドバイスを受け交流を深めながら自分の進路について向き合う機会となった。地域の方々とふれあうことをとおして、生徒は礼儀やコミュニケーション能力を高めることができ充実した会となった。

<課 題>

学校応援団の方々には、来校して活動をする機会があるが、一般の地域の方々にご来校いただく機会はあまりないと感じた。来年度も新しい生活様式を踏まえながら、学校にご協力していただく新しい形のボランティア活動を模索していかなければならない。

また、今後も継続していくためには、町会、自治体の方々との連携を強め、新しく協力していただける方の発掘する、担当者を置いて校務を分掌するなど、学校全体で継続的、発展的に進めていくことが重要である。

5 コーディネーターより

南葛西中学校の学校応援団の活動は、多くの方々にご協力をいただき定着している。今まで、「地域ふれあい面接」や「図書館整備ボランティア」、「花壇や農園の作業」により地域と学校が一体となって生徒を見守ることができていた。

今年度も、昨年度と同様に、花壇の整備とふれあい面接を実施することができたことはうれしいことである。しかし、学校応援団として登録してくださっている方が減少傾向にあり、今後の活動が心配される。

今後も学校応援団として新しい形のボランティア活動も模索しながら、「地域とともに歩む南中」を実感することができる温かい関係を育めるよう、地域の子供の成長を見守り続けていきたい。

6 学校長より

南葛西中学校は、学校応援団の方々をはじめ、これまで多くの地域の方々に支えられながら子供たちの健全育成に取り組んで参りました。今年度は「地域ふれあい面接」そして「花壇や農園の整備」に取り組んでいただき感謝しております。ご多用の中、時間を割いて本校のために活動してくださるボランティアの皆様のご取り組みと関わりによって、生徒一人一人に地域の一員としての自覚と、伝統を継承していく担い手としての自負として芽吹いてきています。今後ともご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

南葛西第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西第二中学校長 古澤 浩一
 コーディネーター 高島 由紀子

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	15人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
陶芸	11月～2月 授業6日間 準備、後作業 24日間75時間	4～7人
図書	不定期（5回）	2～3人
家庭科（被服）	不定期（6回）	3～4人
社会人講話	不定期（1回）	7人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・家庭科被服授業では、裁縫作業の生徒活動を補助していただき大変助かっている。教科担任1人では全生徒の細かいフォローは不可能である。生徒も手伝ってもらいながら楽しそうに活動している。
- ・陶芸は、4～7名で各クラス3回の授業の進行とサポートと、授業外での準備、焼き釜入れ窯出し等で、のべ24日間75時間程度のご協力をいただいた。美術科教員1人では到底できない内容が可能となり、生徒も興味をもって楽しんでおり、深い学びと充実した学習となった。
- ・社会人講話は、2学年進路学習、チャレンジ・ザ・ドリーム（職場体験）の一環として実施。生徒は興味津々に講話に聞き入っていた。知らない世界、仕事の世界を垣間見て、見聞を広げたようだ。

<課 題>

陶芸の代表ボランティアの方が期間中連日朝から夜まで作業しており、ボランティアといえど負担が大きいと感じる。学校側も、焼き窯の調整を依頼され、時刻が19:00などとなり勤務時間外作業となっている。

5 コーディネーターより

今年度の活動は陶芸・図書・家庭科・社会人講話の4種類全てを実施しました。

コロナ5類移行に伴い活動の制約は減りましたが、引き続き感染症対策に留意して無事に終了できたことは、ボランティアの皆様のご協力あつてのことです。改めてお礼を申し上げます。

陶芸では、当日欠席者や授業時間内に完成させることができなかった生徒達に、別途時間を設けて対応していただいております。

また毎年より良い作品に仕上がるようにと道具や素材にも工夫されており、本当に敬意と感謝の言葉しかありません。

来年度も常に学校と連携を取り、応援団活動を進めていきたいと思っています。

6 学校長より

地域に根差した学校づくりを推進し、「生徒に・保護者に・地域に・教職員に魅力ある」教育環境を整えていくにあたっては、学校応援団の皆様の取組は必要不可欠です。

本年度は、コロナ禍を経て、さまざまな取組を企画・推進できる環境になりつつあります。各活動での皆様方の生徒へのあたたかい支援は、本校の学習活動を豊かにするとともに、生徒にとっても理想の大人像を実感するものとなっていたと受け止めています。

学校応援団の皆様方には授業時間にとどまらず、応援団活動の準備等において教職員の勤務時間外といえる時間を含め、ご家庭も交えてのご支援・ご協力をいただいていることを承知しております。生徒の喜んだ顔や自己肯定感の高まりを感じていただくことでしか、そのご尽力に報いることができないのは恐縮するところです。

次年度以降も、地域の力を生かすとともに、地域に本校生徒の意欲や良さを知っていただく機会のひとつとしても、協働の体制をさらに推進してまいりたいと考えます。

西葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

西葛西中学校長 川崎 純一
コーディネーター 塙 正彦

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館ボランティア	毎週木曜日	12人
行事支援	不定期	8人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度は5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、学校の教育活動が徐々にコロナ禍前の状態に戻ってきた。学校行事も以前とほぼ同じ内容で実施することができるようになり、感染防止対策を継続しつつ運動会、学芸発表会、学校公開等の学校行事を実施した。また4年ぶりにPTA主催のもちつき大会も実施できた。

各行事の際にはボランティアの方々に受付や会場整理等に関して支援していただき、大変助かった。また今年度も図書ボランティアの方々による活動を実施し、書棚の掃除、整理整頓、本の修繕、新しく購入した本の受入れ、古くなった本の除籍などの図書館内の整備と、毎週木曜日の生徒向けの放課後開館業務を精力的に行っていた。

<課 題>

例年実施している花壇・栽培ボランティア、3年生の面接指導の活動は残念ながら今年度も実施できなかった。来年度の実施に向けて準備をするとともに、新たな活動も模索していきたい。

5 コーディネーターより

今年度は学校行事をはじめとして、学校の教育活動がコロナ禍前の状態に戻ってきて、生徒の活動する様子をたくさん見ることができ、安心するとともにうれしく思いました。

図書ボランティアの活動に加えて学校行事の支援活動もでき、4年ぶりに実施のもちつき大会では大人と子どもの交流ができ、とても和やかな時間を過ごすことができました。

3年生の入試のための面接練習やガーデニング部とタイアップして行う栽培ボランティア等の活動は、今年度も実施できなかったので来年度は実施できればと思います。

また、従来の活動に加えて、来年度はもっと活動の場を広げられるように準備を進めていきたいと思えます。

6 学校長より

今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、感染防止対策を継続して運動会等の学校行事をほとんど例年のように実施しました。当日の受付、会場整理等で学校応援団の方々に関わっていただき、学校としては大変心強く感じました。もちつき大会も実施することができ、得るものが多かったように思います。

また、今年度も図書館ボランティアの方々に活動をしていただきました。図書館の蔵書管理や整備に関して、整った状態になっているのは、ボランティアの方々の献身的な活動のおかげです。

学校の教育活動は、教職員以外の方の支援が必要な場面があります。学校応援団の方々の支援を今後もよろしくお願いします。

東葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

東葛西中学校長 山田 尚孝
コーディネーター 木下 真理子

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	76人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校農園管理	不定期	1人
美化活動（花壇の整備）	不定期	10人
英検、漢検の補助	年6回	30人
学校図書館整備	年9回	35人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・英語検定・漢字検定においては私立高校によっては受験の資料になり、有利になる制度が設定されていることから、百人を超え受験希望者出ています。検定を実施するためには試験監督者等確保が重要となります。PTA役員の方に尽力していただき、保護者の方々に毎回、試験監督をボランティアでお願いいたします。ボランティアの方々のおかげで問題なく検定が実施され、多くの合格者を出すことができました。
- ・学校農園の環境整備については、小松菜等の野菜の種まき・栽培・収穫を実施しました。収穫については前年度より、主に部活動の生徒を中心に主体的にかかわる多くの生徒に姿がみられています。
- ・学校図書館整備ボランティア活動につきましては、学校担当教員・区派遣の学校図書館支援員の方と連携し生徒が利用しやすい学校図書館を目指し、PTA役員の方が声かけをし、蔵書整理、掲示物等の作成等を実施しました。
- ・学校内の美化活動として、定期的に花壇に多くの花を植え、中庭を華やかにすることができました。

<課 題>

学校農園の運営のなかで応援団と生徒の直接交流見られています。さらに、交流する機会を増加していくことが重要と考えます。

5 コーディネーターより

検定の試験監督の確保・学校図書館整備ボランティア活動でPTAの方々の多くの協力を得ることができています。また学校農園の運営の中で、生徒達が種まきや収穫を行うなど活躍の場を提供することができています。今後も学校応援団の活動を充実させていきます。

6 学校長より

学校と家庭、地域の役割を確認し、それぞれのもつ力を十分に発揮し、連携を図ることにより生徒の健全育成に努めている。

学校応援団には「学校農園管理」・「美化活動」・「検定の運営補助」・「学校図書館整備」等、多岐に渡り学校の教育活動を支援していただいている。「学校農園管理」については、種まき・収穫で学校応援団の方と生徒との多くの交流がみられた。今後も地域の方々と生徒との交流を進めていきたい。生徒は地域の重要な人材である生徒を地域と一体となって育成したいと考える。

清新第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

清新第一中学校長 薦田 敏
コーディネーター 坂崎 勉

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	9人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
検定支援	英語・漢字検定の試験監督 (各学期2回で計6回)	6人
特別支援学級書写手本作成・補助	不定期	2人
植栽	3学期予定	9人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度コーディネーターの交代がありましたが9名の方と一緒に、学校のニーズに合わせた活動を進めていきました。

- ・英語検定、漢字検定の各学期3回の運営・試験監督等をしていただきました。
- ・書写の講師をしていただいています。
- ・3学期に植栽を予定しています。

<課 題>

- ・検定のメンバーなどが入れ替わる際には、仕事の手順等の引き継ぎを確実に行う。
- ・今年度は40周年記念行事があり、応援団のメンバーも記念行事の準備委員として活動していただいたため、純粋に学校応援団としての活動は昨年度より少なかった。しかし、教職員の働き方改革にもつなげる活動の実施を検討していただいている。
- ・植栽のお手伝いスタッフの継続ができそうなので、発展させていく。

5 コーディネーターより

今年度の清新第一中学校学校応援団をしております坂崎勉です。学校応援団は清新第一中学校でお世話になった元PTA本部役員の方々を中心としたボランティアメンバーで、学校経営方針に則った活動ができるようにつとめております。令和5年5月8日より新型コロナも5類となり、少しずつですがコロナ前までの生活に戻りつつあります。しかし、依然としてインフルエンザや新型コロナなどの感染症が猛威を振るっております。感染症対策にはしっかりと都度留意しつつ、清新第一中学校のため、お役に立てることに尽力してまいりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

6 学校長より

コロナ前には、学校の教員の時間も大きく使って進めていた学校応援団の方々による活動を、教員がそこまで多くかかわらない形に改めて進めています。生徒の英語・国語検定や学習環境の整備は、生徒指導を進める上で大変助けになっており、いつも感謝しています。

そうはいつでも、1月時点で本校の教員の在校時間は区内中学ワースト2であり、働き方改革を一層推進してもなお教育環境を維持するためにも、より一層のご助力を期待しています。

これまで以上にボランティア色が濃くなっていく活動になりますが、応援団の皆様には引き続きよろしくをお願いいたします。

清新第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

清新第二中学校長 白石 亨
コーディネーター 諸隈 智映子

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	10人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
一人一鉢運動	11・12月 植え替えの手伝い	4人
マラソン大会支援	12月 生徒の見守り	10人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度も、感染症の影響を鑑み、影響の少ない校外での活動で支援をいただいた。

一人一鉢運動では、ビオラを植え替えるための鉢や土の準備や植え替えるときの指導をお願いした。今年度は、生徒が地域の行事へ積極的に参加をしたり、ボランティアとして参加する機会が増加し、さらに交流が深まった。その影響もあってか、昨年度よりも和気藹々とした、とても良い雰囲気の中、植栽をすることができた。

マラソン大会では、生徒のランニングコースのところどころに立っていただき、生徒の安全の確保、見守り、また、声援も送っていただき大変ありがたかった。来年度は防災活動や放課後活動などでもご協力をいただきたく考えている。また、地域での活動なども積極的に参加を促していきたい。

<課 題>

学校の広報活動が足りていないこともあるが、地域の皆様に学校の活動が浸透していないことが課題である。「知っていれば手伝える」などの声を頂戴することが時々あり、地域からの人材発掘を行っていく必要がある。そのためには自治会会長等とコミュニケーションをとり、広めていただくことや、教職員が、地域の活動に参加し、直接、地域の方とコミュニケーションをとることが重要だと考える。

5 コーディネーターより

学校の教育活動の充実を図るため、PTA 関係の方々、地域の方々のご協力を得て今年度も学校への支援を再開することができました。おかげさまで、安心して生徒が学校に通うことができ、安全に学校行事を行うことができました。今後も、学習支援、学校行事などを通して学校づくりを応援していきたいと思えます。

6 学校長より

まだまだ様々な感染症の心配がある中、学校応援団の方々、地域の方々、保護者の方々にご支援をいただきまして誠にありがとうございました。おかげさまで、今年度も予定された学校行事を無事に終えることができました。また、昨年度よりも地域との交流が活発になっていることが実感でき、非常にうれしく思います。

学校では、保護者、地域の方々との相互の協力体制の中で、安心・安全で楽しく通うことができる学校づくりを目指しています。また、さらに地域との交流が活発になるようにも取り組んでいきたいと思っております。今後とも皆様の応援をどうぞよろしく願いいたします。

瑞江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江中学校長 岩下 敏夫
 コーディネーター 平根 康宏

2 ボランティア数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	7人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	学期に1回	4人
		
花いっぱいプロジェクト	年1回	3人
		

4 今年度の成果と課題

<成 果>

学校応援団の活動も今年で13年目になりました。現役の保護者が毎年引き継ぎながら活動していただいている図書ボランティアの方々には、図書室整備に尽力していただきありがとうございます。また、今年度より「花いっぱいプロジェクト」を立ち上げ、生徒玄関の前をたくさんの花で彩ることができました。

学校応援団のそれぞれの方々や学校との連携も深まり、瑞江中学校の教育目標である「自ら育つ」生徒の育成に向けた教育活動を確実に支えていただき、開かれた学校づくり、生徒の健全育成の一助として大変お世話になっております。今後も生徒、教職員、PTA、地域の方々や一体となって、教育活動を推進していきたいと思っています。

<課 題>

- ① 学校応援団はPTA活動よりも緩やかな組織であるため、ボランティアの人材確保が難しい。
- ② 年度当初に計画的に必要な予算案を立て、有効活用していくことの必要性を感じる。

5 コーディネーターより

平根 康宏

瑞江中学校「学校応援団」代表（コーディネーター）となって13年目になりました。我が子が在籍中はPTA役員として教育活動に関わり、今年度も学校評議員として瑞江中の教育活動を陰ながら応援しています。子供が卒業すると中学校との関わりもなかなか取りづらくなってしまいがちですが、現役の保護者やPTA顧問会の皆様、おやじの会のメンバーなどとともに、学校応援団としていろいろな場面で学校の活動に関わってきました。コロナ禍の影響でここ数年あまり活動ができていませんでしたが、今年度は「花いっぱいプロジェクト」が立ち上がりました。花壇を彩るたくさんの花は、きっと子供たちの心も癒してくれるでしょう。

来年度も学校応援団として大きな応援の広がりを作り上げていきたいと思っています。益々のご支援とご協力をどうぞよろしく願いいたします。

6 学校長より

岩下 敏夫

ここ数年、コロナ禍の影響があり、あまり活動ができていませんでしたが、今年度は「花いっぱいプロジェクト」を行うことができるなど、活動の本格実施に向け、大きく前進することができました。生徒玄関の前を彩るたくさんの花は、きっと多くの方の目を楽しませてくれるはずです。また、今年度も図書室保護者ボランティアの方々に、図書室をきれいに整備していただき大変助かりました。生徒一人一人の可能性を伸ばすため、いろいろな面から支援していただき、とてもありがたく思っております。来年度も、今年度の活動を継承しつつ、内容の充実を図ってまいります。

瑞江第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江第二中学校長 滝澤 清豪
コーディネーター 川原 晴久

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	16人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書ボランティア	隔月1回程度 月曜日に集まって活動	16人
学校花壇ボランティア	コロナ禍のため令和5年度は休止	—

学校図書ボランティア



学校花壇ボランティア



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- 1 本の修理、本の購入、本の廃棄が計画的にできていることで、蔵書の管理がしやすくなっている。
- 2 ボランティア活動に参加する機会を得て、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育成できた。
- 3 PTA やOB 会の方とのふれあいを通して地域の一員であることを自覚することができた。
- 4 花壇の美しさが本校の特徴の一つになっている。それを生徒が自覚している。

<課 題>

- ・コロナ禍、インフルエンザの流行下での活動の難しさ。
- ・教員の応援団との協働、意識向上を図ること。
- ・活動内容の整理と確認及び新たな取組の模索をすること。
- ・学校応援団と生徒が協同作業の回数が限定的であること。

5 コーディネーターより

学校応援団代表として、学校に協力できることをPTAOB会の皆さんや同窓生とよく相談している。これからも学校との連携を一層密にしていきながら、教育支援に意欲のある方々を発掘して学校を応援していきたいと考えている。

開校時に園芸部員として地域の方々と共に作り上げた学校花壇の意味（「静」ゾーンの校舎と「動」のゾーンのグラウンドとの線引きを意味する）と学校が開校以来、常に地域と共にあり、生徒、教職員、保護者、地域の皆さんの多くの努力、情熱に支えられて今があることを伝えることができた。

学校応援団代表として花壇ボランティアや図書ボランティアなどの活動に生徒と一緒に取り組めることを喜び、コロナが落ち着いた今、学校応援団の活動がより広く、活発になるよう代表として活動していきたい。

川原 晴久

6 学校長より

図書ボランティアの活動では、図書館の整備をしていただき、昼休みの図書館開放では、たくさんの生徒が訪れていました。花壇ボランティアについては、今年度もコロナ禍の制限、また、例年よりも格段に早く到来したインフルエンザの大流行の中で休止とせざるをえず残念でした。

本校の特徴のひとつとして「校内の花壇に咲いているたくさんの花と、学校の敷地を囲んでいる草花」があげられます。来校者や近隣の方かもお褒めの言葉をいただいています。応援団の皆様、教職員、生徒が一体となって花壇の手入れを行っている姿を復活させられるよう願っています。令和6年度は少しずつでも活動を再開させて、地域とともに生徒たちを育てる体制が一層強固になっていきますよう、瑞江二中への応援をお願いいたします。

滝澤 清豪

瑞江第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江第三中学校長 山口 孝
 コーディネーター 澤井 茂

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	4人
	学生ボランティア	2人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	週4回	1～2人
花いっぱいボランティア	不定期	2人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度も昨年度同様、図書ボランティアに来ていただきました。季節ごとの飾りつけや子供たちが入りやすく、本に親しみやすい環境を作ってくださいました。お子さんを連れてきてくださり、ご家族でボランティアをしてくださり、とてもアットホームな応援団となりました。

また、花いっぱい運動の園芸ボランティアと本校野球部が協力して、避難所開設のために必要な装置の使い方を学んだり、備蓄倉庫にあるものを確認したり、実際に避難所を開設する場面を想定しながら、活動を行いました。花いっぱい活動では、校内の花壇の整備や作物づくり、そして瑞江駅の花壇への花植えを行いました。

<課 題>

コロナが5類になったことで、様々な活動の制限が緩和されたことによりできることは増えたと感じています。しかし、年度途中だったために新しいことを急に始める、ということは難しく、例年通りの形になりました。来年度は地域の方に呼びかけて、花いっぱい運動や非常時に役立つ野菜作りなどを教えていただきながら生徒と一緒に活動していただけたら、と考えています。

5 コーディネーターより

図書ボランティアに来てくださる OB・OG の皆様ありがとうございます。新しい校舎になって3年目ですが、図書室を日々、綺麗に見やすく飾りつけをしてくださっています。また瑞江駅の花いっぱい運動では、地域の方々の目を楽しませることができているのではないかと思います。これからも、学校応援団として学校、地域を盛り上げていきたいと思っています。

6 学校長より

図書ボランティアの方は、ほぼ毎日来てくださり、図書室をより使いやすく、また季節に応じて変化のある飾りつけをしていただき、心より感謝申し上げます。本校生徒も、ボランティア熱が上昇中です。今年度は、地域のおまつりや自転車盗難ゼロ運動をはじめ、避難所開設のための準備として生徒たちが実際に「かまどベンチ」を組み立てたり、井戸水を出してみたり、備蓄倉庫や簡易トイレを見学したり、アルファ化米を食べてみたりと、いざという時にボランティアとして地域の方のお役に立てるよう、自主的に活動しています。また現 PTA 会長様と本校生徒会が今後のボランティア活動について話し合うなど、来年度に向けて具体的に動き出しています。地域の方々の力をお借りしながら、学校応援団をより盛り上げていければと考えております。



春江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

春江中学校長 横枕 耕史

コーディネーター 原田 仁

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	23人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
防災教室	11月18日(土)	12人
図書ボランティア	月、金曜日	15人
運動会の警備・掃除	行事ごと	8人

《令和5年11月18日(土)防災教室の様子》



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度の活動は防災教室・図書ボランティア・運動会の警備、校外清掃等の3つである。防災教室については、江戸川消防署 瑞江出張所、江戸川区危機管理室防災係、自衛隊を中心として防災を体験できるブースを設置して実施した。参加団体は、江戸川区東部区民事務所地域サービス係、避難所開設委員、地域からは8町会が参加した。活動として、生徒が次のブースへの移動しやすいように誘導をした。さらに、AEDや消火器訓練の補助や声掛けなどをおこなった。

図書ボランティアについては令和3年度からの活動である。昨年度から、金曜日だけでなく、月曜日にも学校図書館を開館し、その業務に携わっていただいている。生徒への本の貸出業務だけではなく、書籍の廃棄や購入などの管理、学校図書館の内装の装飾、「春中図書館通信」の毎月の発行など精力的に活動していただいている。特に、昨年度から図書館の内装の装飾等にも力を注いでくださった。

学校行事等見回りについては何年も継続して活動していただいている。「春中メンズクラブ(おやじの会)」の方々が運動会や学習発表会といった大きな行事の警備、清掃活動、駐輪場の管理をはじめ、多岐に渡り様々なことに取り組んでいただいている。今年度は特に運動会の会場警備、周辺の清掃活動や自転車置き場の管理を行った。

<課 題>

防災教室では、地域の防災啓発活動として、学校応援団が中心となって地域を巻き込んで活動している。防災教育の必要性を広めていくために、学校が応援団と連携して地域と結びつけていくことが課題である。学校が防災教育の「担い手」「気づきを与える」べき人材を育成する仕組みや体制を構築させることが大切である。また、運動会の見回りでは観戦ルールについて、応援団の声掛けにも応じなかったり、駐輪場の使い方もモラルにかけた保護者がいた。全員が当事者意識をもって、よってより良い環境になるように心がけていくことが必要である。

5 コーディネーターより

本年度よりコーディネーターを芦田様より引き継ぎました。行事などに協力してくださるボランティアの方や先生方、本当にありがとうございました。また、図書館の充実はとても嬉しく思いますし、本の種類やレイアウトを含めた充実は、生徒が本に触れる機会に大きく貢献しています。防災教室や運動会の警備や清掃を見ましたが、お揃いの上着を着用し、学校や生徒をみえないところで支えている姿はまさに「学校応援団」でした。お忙しい中にも関わらず、活動に参加している方々には本当に感謝しております。今後も学校応援団コーディネーターとして学校と地域のよりよい関係のために尽力したいと思います。

6 学校長より

学校応援団コーディネーターの原田様をはじめ、防災教室、図書ボランティアの活動、春中メンズクラブの運動会における警備等の活動に携わった学校応援団の方々に、常日頃の活動について深く感謝申し上げます。みなさまのお力添えは、春江中学校が今後さらに地域に根差した学校に進化するために必要です。また、皆様のおかげで学校の円滑な運営ができております。今後とも、生徒の健全育成のためにご理解とご支援よろしく願いいたします。

鹿本中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

鹿本中学校長 加納 学
 コーディネーター 加藤 正人

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	13人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学習補充教室	長期休業中（夏季・冬季）	0人
特別支援学級補助	不定期	0人
図書館整備	不定期	0人
手話通訳	難聴学級「卒業生講演会」（9月）	1人
餅つき会運営	延期	0人
朝のあいさつ運動	学期1回、一週間	PTA活動
心和む 花を！	学期1回	2人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

鹿本中学校の周辺地域は、学校を温かく見守り、応援していこうという伝統的な協力体制があります。その伝統は受け継がれ、現在でも保護者、PTAのOB・OG等の皆様や卒業生の皆様から温かなご支援・ご協力をいただいております。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が、2類から5類になりましたが、感染の防止に努めながら活動を実施いたしました。3年前から始めた「心和む 花を！」プロジェクトを推進し、道路に面した敷地内に花を植え、咲かせることができました。生徒らが手入れを丁寧にしたため、予想外に長く咲き続けました。生徒も手ごたえを感じていましたが、総合体育館を利用する方々から「きれい」「歩く楽しみがある」などお褒めの言葉をいただいたことが、何よりもの喜びとなりました。これを契機にさらに地域に根差した学校を目指していきます。

<課 題>

ボランティアの登録人数やPTA以外の地域協力者を確保するのが難しい状況があります。平日の放課後に図書館解放や学習教室を手伝ってくれる人材を確保し、学校司書と連携し、読書活動や学習をより一層、活発にしていければと考えています。また、今後、応援団と生徒が協力して校内の整備・美化活動を活発にしていきます。4年前にPTAのOB・OG会が再編成されました。今後は、十分に連携して活動を、進めることが課題です。

5 コーディネーターより

この一年間、鹿本中学校の取り組みにご協力とご支援をいただきまして、心から感謝申し上げます。応援団は「あくまでボランティア」とは言え、自分の時間・生活を割いて学校に出向いて下さる方々の善意に甘え続けることは心苦しく感じます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の防止に努め、少しずつ活動を再開いたしました。「心和む 花を！」プロジェクトも4年目に入り、徐々に地域から認知され、「次は何の花?」「手入れが大変でしょう」などという声を聞きます。関係ある鹿本中学校が地域のために役立ち、評価されていることは、何よりも嬉しいことです。地域や卒業生などの協力を得られるようにさらに努力します。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

6 学校長より

学校応援団の皆様、卒業生の方々、そして、PTAの方々など多くの皆様からの応援をいただきまして、心よりお礼申し上げます。

鹿本中学校には、通常の学級、特別支援学級、難聴通級学級、特別支援教室があります。それぞれ、特色ある教育活動に取り組みながら、お互いを認め合い、励ましあい、高めあって中学校生活を送っています。学校応援団の皆様には、この特色ある教育活動にご支援を戴いております。そのため、教員では補いきれない分野での活動においても十分に取り組んでいると感謝しております。今後とも生徒のよりよい自己実現のため、ご指導、

ご協力を頂きますよう、よろしくお願ひ致します。

鹿骨中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

江戸川区立鹿骨中学校長 大谷 雅也
 コーディネーター 川合 里美

2 ボランティア数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	10人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花壇整備	年4回	5人
図書館整備	年1回	5人
敬老の日のお手紙	年1回	5人
ポプラまつり	年1回	5人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

「日々の生活を大切にして、中学生でもできるボランティアを行って、学校や社会がよくなるような喜びや楽しみをつくりだしていきたい」と、生徒が自ら活動に取り組み、学校応援団に支援していただきました。

○花いっぱい運動

「花の街 鹿骨」の伝統を守るために、学校を花でいっぱいにする活動を行いました。花壇のレイアウトなどを生徒が自ら行い、正門の花壇に花苗を植えました。花苗は、学校評議員さんからも協力をいただき、年間を通して花壇を楽しんでいただきました。

「この花壇を見て、元気で明るい気持ちになってくれてうれしいです」と生徒の感想も聞くことができました。

○敬老の日のお手紙

敬老の日に有志の生徒が、メッセージカードを作成しました。民生児童委員を通して、町会の高齢者の集いで披露していただきました。「鹿骨中学校の皆様の励ましやお礼の言葉に元気に長生きしなければと思いました。心温まるメッセージをありがとうございました。」とお礼状をいただきました。

○図書館ボランティア

図書館の整備や廃棄本の整理を学校応援団の方にご協力いただきました。

○ポプラまつりへの参加

今年度は、4年ぶりにポプラまつりを実施しました。多くの学校応援団の方々にご協力いただき、大盛況でした。

<課 題>

学校応援団の組織の継続と、学校と応援団の間の情報の共有方法について体制を確立したい。

5 コーディネーターより

花いっぱい運動として、玄関前の花壇の整備やプランターへの球根植え、図書館整備を行うことができました。今年度は4年ぶりに再会したポプラまつりのお手伝いも行いました。今後も幅広い活動を行い、鹿骨中の教育活動の支援ができればと思います。

6 学校長より

今年度も学校応援団の活動が制限されたが、コーディネーターの川合様や学校評議員の方々にもお手伝いいただきました。来年度も、今年度の活動の継続とさらに活動の幅を広げたいと考えています。教育活動には、学校応援団の支援が不可欠であり、引き続きのご支援をお願いしたい。

篠崎中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎中学校長 紅林 兼一
 コーディネーター 中川 博喜

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	25人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
運動会パトロール	年1回	20人
進学に向けた面接練習	年1回	25人
篠中フェスタ	10月	10人
花壇整備	2月下旬に実施予定	10人



進学に向けた面接練習



花壇整備

4 今年度の成果と課題

<成 果>

【運動会パトロール】

- ・学校応援団の協力で校庭、駐輪場等の見回りを行っていただいた。今年度は、数年間続いていた新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐための入場制限を撤廃したこともあり、多くの方が来校されることが予想されたので、多数のパトロール人員が必要となったが、学校応援団の皆様の協力によって、滞りなく会を進行することができた。
- ・校舎内駐輪場に自転車が入りきらず、校舎外の道路や近隣公園に自転車が駐輪されることも予想されたため、学校応援団の方に協力を依頼し、都営公園を借り上げることで、臨時駐輪場を開設することができた。
- ・観戦者の熱中症対策として、一部の冷房施設のある部屋から運動会を観戦できるように開放し、校舎内のパトロールを学校応援団の方に担っていただくことができた。

【面接練習】

- ・3年生の進学に向けた面接練習の面接官をPTA OB会を中心としたメンバーに行っていただいた。普段指導に当たっている校内の教員ではない地域の方に面接官を行っていただくことで、生徒たちは緊張感をもって練習に取り組むことができた。

【篠中フェスタ】

- ・篠崎中学校関係者だけでなく、近隣小学校PTAやOB会、おやじの会等が、出店や出し物など地域一丸となって協力していただくことができた。

【花壇整備】

- ・卒業式に向けて正面玄関の花壇整備を行う。今年度は2月下旬に実施予定である。

<課 題>

- ・学校応援団の人材の確保や平日の日程調整が難しい。
- ・教職員との連携を一層充実していくことが必要である。

5 コーディネーターより

- ・今年度は、コロナ禍による行事の中止等がなくなり、活発な教育活動が再開してきました。今後も学校応援団として、地域と学校のかげ橋となれるよう様々な協力を行っていきたいです。
- ・地域性の温かさや篠崎中学校が地域から愛されていることを大切にしていきたいと思っています。

6 学校長より

- ・学校・保護者・地域の願いが、「誇れる母校」を目指し、地域の一員として自覚をもてるように育てています。今後もネットワークをさらに広げ、強めることにより生徒のために充実を図っていきたいと思います。
- ・本校は、令和6年度に江戸川区のコミュニティ・スクールモデル校として、地域住民等と学校が力を合わせて学校の運営に取り組む体制づくりを行ってまいります。来年度以降についても学校応援団の皆様には、学校と地域をつなぐ重要な役割を担っていただくこととなるかと思っております。今後とも御協力のほどよろしく申し上げます。

篠崎第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎第二中学校長 蓮沼 祥之
 コーディネーター 朝倉 公義

2 ボランティア数（令和6年1月末現在：13人）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	10人
	学生ボランティア	3人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
入学式支援	4月	10人
運動会・文化祭実施支援	6月・10月	20人
学校公開受付支援	年間7回	5人
篠二プラザ開催支援	10月	10人
環境整備	不定期	10人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

【活動】

- ・ 6月実施の運動会での、自転車整理や受付業務のお手伝い。
- ・ 10月に実施するPTA主催の「篠二プラザ」において、模擬店での販売を担当。
- ・ 柔剣道場周辺にある竹林と柵の環境整備や管理。
- ・ 11月PTA主催の「ボランティア清掃」へのお手伝い。

<課 題>

- ・ ボランティアの方は、PTAのOB・OGの方がほとんどで高齢化が進んでおり、活動を計画して行うことはできなかった。
- ・ 学校応援団の活動そのものや、計画自体が学校発信となってしまっている。

5 コーディネーターより

応援団の皆さんには、公私ともに大変ご多用の中、それぞれが都合のつく時間で活動をしていただいております。今年度は、世界的にコロナ禍が収束方向に向かったことで、コロナ禍以前と同等とはいかないまでも、活動を再開することができうれしく思っています。

しかし、今後の活動について考えると、内容によっては現在のメンバーだけでは体力的にも厳しいものもあるとおもいます。そこで、学校とも協議のうえ新たなメンバーを募る活動を進めていかなければと思っております。来年度以降も皆さんと一緒に篠崎二中を盛り上げていきたいと思っております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

6 学校長より

コロナ禍もあり、活動が停滞していた校応援団の取組が徐々にではありますが、活性化しつつあることに感謝しています。

学校の働き方改革は勤務時間の短縮の点では進みつつありますが、教育活動の充実との両立の面ではまだまだ改革を推進しなければならないと感じています。

今後は、学校応援団の皆様のご協力やご支援をいっそう賜りながら、本校生徒の成長のため連携を深めて参りたいと考えています。

小岩第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第一中学校 学校長 青山 昭広
 コーディネーター 山辺 登

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	約20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
あいさつ運動	生徒の健全育成のためのあいさつ運動 (不審者パトロール含む)	延べ約15人
三校一園合同音楽会	楽器運搬作業他(11月)	延べ約6人
地域ふれあい面接	面接官として面接の指導(10月)	延べ約10人
玄関装飾花壇づくり支援	プランター及び樹木植え付け、花壇 (不定期)	延べ約10人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

小岩中部地区の町会とPTAのご協力のもと、学校応援団活動が継続されています。今年度は学校行事も、コロナウイルス感染症拡大前の状況に戻っており、例年に通りの学校応援団の活動ができました。一方で学校改築のため、今年度から2年間は仮設校舎での教育活動になります。しかし、昇降口には、あらたにプランターを整備し、生徒たちが少しでも気持ちがよく登下校できるよう季節の花で飾っています。また、PTA役員や「学校応援団」の方々が、登下校のパトロールを兼ねた朝のあいさつ運動を行いました。昨年度からはじめた「地域ふれあい面接」でも、生徒たちの面接指導に当たっています。このように「学校応援団」の活動は小岩第一中学校において、欠かせない活動であり、今後も工夫しながら継続して活動をしていきます。

<課 題>

地域の方々（学校評議員・民生児童委員・青少年委員・PTAなど）のご協力により、ボランティアという形式で活動していますが、近年仕事に従事する方々の割合が急増しています。そのため、ボランティアを募り継続していくことに困難さが出てきたことが、課題となっています。本校は、近隣小学校のPTAと連携し三校一園PTA連絡協議会を（園は閉園）設置し、例年三校一園合同音楽会を開催しています。今後も、三校のPTAや町会等地域の皆様に広く呼びかけ、ご協力をお願いしていきます。

5 コーディネーターより

本校における学校応援団の活動は、保護者、PTA役員の方々、PTA役員OB、そして、同窓会や町会等地域の皆様といった本校と関わりのある方々に参加いただき活動しています。「できるときに、できることを」というスタンスで無理をせずご協力できる範囲内とすることで、持続可能な活動を目指しています。今後の活動も、学校教育と地域の架け橋となるような活動や生徒たちが成長できる環境づくりを支援していきたいと思えます。

6 学校長より

本年度も、保護者、PTA役員、PTA役員OB、同窓会や町会等地域の皆様等、多数の方々の応援をしていただきました。心より感謝申し上げます。本校では、「みんなが幸せになれる学校」を目指しています。実現のためには、学校、家庭、地域が三つの力を合わせる必要があります。昨年度からはじめた「地域ふれあい面接」など、皆さまのご協力により、新しい活動も増えました。生徒たちのためにありがとうございました。これからも、生徒の健やかな成長へのお力添えをよろしく願いいたします。

小岩第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第二中学校長 高萩 広志
 コーディネーター 尾崎 友信

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	30人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
パンジー栽培・ 高齢者施設への贈呈	1月 パンジーの栽培 2月 高齢者施設への寄贈	7人
岩二祭	10月1日	13人
環境整備	10月21日 江戸川土手清掃	110人
募金活動	12月26日 JR小岩駅前での ユニセフ募金	35人
土曜受験講座	3年生対象の都立入試対策講座の開講	2人

土手清掃ボランティア



ユニセフ募金



岩二祭



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・栽培したパンジーを高齢者施設へ届ける活動を昨年度に引き続き行いました。前校長先生からいただいたパンジーを校内で成長させ、2月に生徒会生徒が高齢者施設にお届けしました。参加した生徒は、高齢者の方々に喜んでいただいたことで、人のために役に立つ嬉しさを感じることができたようです。
- ・江戸川での土手清掃ボランティアを実施しました。100名以上の生徒が参加し、江戸川病院前付近から小岩菖蒲園までの河川敷にあったゴミを拾いました。缶・ペットボトルをはじめ、たくさんのゴミがありました。生徒はゴミの多さに驚くとともに、土手がきれいになったことによる達成感を味わうことができました。また、環境財団の方によるあおぞら環境学習も行っていただき、地域の環境について学ぶ機会ともなりました。
- ・小岩駅前やその周辺において、ユニセフ募金活動を行いました。生徒会生徒や希望して参加した生徒総勢35名が大きな声で募金を呼びかけました。通勤途中の方やご高齢の方など多くの方々に募金をしていただいたり、声をかけていただき、参加した生徒はやってよかったと思えたようです。
- ・希望した3年生を対象とした土曜受験講座を実施しました。2学期を中心とした火曜日(数学)・木曜日(英語)の2教科の授業に計40名の生徒が参加し、それぞれ講師の先生に熱心に授業をしてもらいました。昨年度より参加人数が増えただけでなく、参加した生徒はみな熱心に問題に取り組む姿が見られました。

<課 題>

江戸川土手清掃やユニセフ募金活動に多くの生徒がボランティアとして参加しましたが、来年度は応援団としてさらに多くの地域の方々に参加していただけるような取組にしたいと思います。

5 コーディネーターより

今年度は予定通りに多くの活動を実施することができました。今後もさらに学校と地域の関わりが活性化されることを期待しています。来年度も小岩二中の生徒のみなさんと楽しく活動をしていきたいです。

6 学校長より

今年度はお陰様で予定通りに充実した活動を実施することができました。「応援したくなる学校づくり」のために私たち教職員も保護者・地域の皆様方と連携を深めてまいりたいと思います。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

小岩第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第三中学校長 山田 人也
コーディネーター 渡邊 哲也

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	100人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
廃品回収	年4回	80人
菜園管理・指導	年10回	1人
面接指導	年1回	15人

4 今年度の成果と課題

<成果>

学校応援団のみなさんの力が、生物環境部による活動において生徒の支えとなっています。受験期の3年生を対象とした面接練習を、地域の方々をお願いしています。これらは「心の教育」を重視している本校の大きな特徴の一つとなりました。団長（コーディネーター）を中心に学校の環境整備にも計画的に取り組むことができました。本年度は教室前にゴーヤによるグリーンカーテン作り、屋上菜園で行った野菜作り、花の栽培などを通し植物への理解を深めるなど、生徒たちの生きる力につながりました。

<課 題>

サポーターとしての大人の募集や維持費の捻出が課題です。屋上緑化の維持管理を中心的に行ってくれる学校応援団員を見つけることを目標としていましたが残念なことに見つけることができませんでした。令和6年度も新たな応援団員を募集し、さらなる活性化を図っていきます。

5 コーディネーターより

私が学校応援団として活動するきっかけは屋上緑化のお手伝いでした。日々進化していく屋上での活動を進めていくうちに生物環境部のお手伝いをするようになりました。

子供達と過ごす時間はとても楽しく、最初は土いじりに消極的だった生徒も何かを発見したり自然と触れ合ったりしているうちに、“わぁ！すごい！”とすごく感動し、積極的に活動に参加するようになった姿を見ると本当に嬉しくなります。収穫の喜び、など楽しいこともたくさんある反面、夏の暑い中での草取り、芝刈り、など大変なこともたくさんあります。微力ではありますがこうした活動のお手伝いをするにより、生徒たちをより身近に感じながら学校の環境を整えることへ繋がっていけばこんなに嬉しいことはありません。

学校応援団では、屋上緑化など自然との共存する活動の他にも部活動や学校行事の取り組みのお手伝いもしています。少しでも学校の力になりたいと思っている地域の人々と、学校教育をより充実させたいと考えている先生方の思いがつながり結成された学校応援団。こうしたあたたかい気持ちのつながりが充実した学校環境をつくり、子供達へと伝わっていくことを願いつつこれからも活動していきたいと思えます。

6 学校長より

本校の学校応援団の取り組みもスタートして14年目を迎えました。取り組み内容にありますように、様々な活動を展開していますが、学校の教育環境の充実や生徒の心の充実という目的に叶ったプロジェクトになっています。本校では、校舎屋上での野菜作りや植物栽培、学校内外の環境整備がその活動の柱となっていますが、応援団の方々には生徒の活動を支える大きな力になってもらっています。また、部活動や学校行事にも応援団の方のお力添えをいただいております。何よりも、生徒たちが屋上の野菜や植物、生物を大切に育てたり、見守ったりしながら自分たち自身の心を育ててくれていることが大きな成果だと考えています。これからも、保護者や地域の方々のご協力ご支援を得ながら有意義な学校応援団の活動を続けていきたいと考えています。

小岩第四中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第四中学校長 鈴木 訓文
コーディネーター 若松 喜美子

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	4人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
面接指導	年1回	1人
花の植樹	年3回	3人

<花の植樹>

「70周年をお祝いするために玄関に花を植え、季節の花を楽しむと共に、花に親しむ心を築く」

学校応援団の協力により、70周年をお祝いするために玄関に花を植えていただいた。季節の花を観賞すると共に、花への興味をもってもらえた。



<面接練習>

三年生の面接練習の面接官として1名の方に協力していただきました。



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・「地域ふれあい」として、地域の方に3年生の面接練習をお願いしている。生徒は緊張しながらも実際に近い形の練習ができ、地域の方には生徒の実態がつかめるということで、双方にとって良い機会となっている。
- ・70周年を記念して玄関に花を植えていただき、季節の花を楽しみながら、登下校できている。また花への興味や関心をよせるようになっている。

<課 題>

課題として次の3点があげられる。

- ・コロナ禍で、生徒に協力をお願いする流れが途絶えてしまい、応援団の方のみの活動となっている。今後は、地域の人材を活用し、多くの方に協力を願いたい。
- ・生徒参加の活動を考えたいが、部活動が日々あるので、無理のない程度で、子供たちができる事も今後考え、活動する。
- ・菊を育てていた場所がスロープになり、3年前より菊づくりを断念している。長年菊づくりを行い、生徒に鑑賞する事が出来ていたが残念である。しかし菊に代わる企画を考えるのが難しい。

5 コーディネーターより

学校応援団長として、16年間学校支援に携わっている。「菊作り」を今年度も断念した。その代わりに70周年をお祝いするための花を玄関に植えた。少しでも、生徒が登下校で花に関心を抱いて貰えれば幸いです。また、面接などの機会に学校の様子もうかがわれ、とても楽しみにしている。今後も、地域に根を張った「学校応援団」を目指して、学校の要望にあった幅広い支援の輪を広げていきたい。

6 学校長より

コーディネーターをはじめ学校応援団の関係者の皆様には、ご多用にもかかわらず、今年度も面接練習や花の植樹など、学校のために尽力していただき、とても感謝しています。今年度は周年行事があったため、特に地域の方々からたくさんのご支援をいただきました。本校では今後も、健全育成の場として、地域の皆様と生徒がふれあう機会を大切にしていきたいと考えています。そのような活動をさらに推進していくためには、学校応援団の皆様のご協力が不可欠です。引き続き、来年度以降も本校の応援をよろしく願いいたします。

小岩第五中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第五中学校長 石井 千歳
 コーディネーター 前場 利彦

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	17人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校農園	通年	8人
高校合同相談フェスタ	7月8日(土)	10人
PTA来てきてバザー	10月28日(土)※文化祭に併せて開催	6人
地域清掃	3月(予定)	未定

【栽培体験の一例】学校農園で野菜（冬瓜）を収穫→給食で喫食



豊作でした（数字はkg）



給食室で調理



そばろ煮でおいしく頂きました

4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ① 感染症による制限のためしばらく開催できずにいた「PTA来てきてバザー」が、小規模ながら文化祭と併せて開催することができました。
- ② 「学校農園」事業においては、例年と同様農園部の皆様の厚いお力添えにより、特別支援学級等の授業において子どもたちに栽培→収穫の体験をさせてあげることができました。5月に収穫した玉ねぎは「スタミナ炒め」として6月1日の開校記念日のお祝い献立となり、今年度豊作であった冬瓜は、約3か月のあいだ数度にわたって給食の食材となりました。また、年度内（令和6年2～3月頃）には、給食委員会としての活動の中で長ねぎ収穫の体験活動を行う予定であり、地産地消の喜びをより実体験してもらえることと思います。
- ③ 高校合同相談フェスタについては、コロナ禍を越え3年連続で元の規模に少しずつ戻しながら開催しています。今年度は登録ボランティア以外にも総勢50人近くの方々に関わっていただけました。この活動は生徒の今後のビジョンを開拓できる良い機会となっており、子どもたちも保護者の皆様も意欲的にブースを回り相談している様子が見られました。

<課 題>

地域の人的資源を有効に活用できている一方、一定のメンバーに負担が偏ることなく、持続的な活動を行えるような人材確保が昨年度に引き続き今後の課題です。

5 コーディネーターより

過去3年間ほど続いた感染症による制限も緩和され、ようやく従来に近い活動を再開できるようになりました。学校応援団としましては実際に生徒・教職員の皆さんと対面して活動することに意義があると考えていますので、地域としてのボランティア活動が生徒の皆さんの健全育成をどのように応援できるかをあらためて意識しつつ、今後さらに学校のお役に立てるよう、積極的に取り組んで参りたいと思います。

6 学校長より

応援団の皆様にはいつもお世話になっております。昨今の世情において、学校に皆様の貴重なお力をいただいているこの活動は、大いなる成長期である子どもたちにとって重要な機会であり大変ありがたいことであると思っております。

応援団の基本である「学校」「家庭」「地域」が共育・協働するというモットーは地域に根差す学校の今後においてとても重要な取り組みであると考えます。日々のご尽力に感謝申し上げますとともに、引き続き応援団の皆様のお力添えをいただけますよう、お願い申し上げます。

上一色中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

上一色中学校長 梅田 保幸
コーディネーター 菅原 一之

2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	7人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書整備、図書館管理	不定期	5人
花いっぱい運動	年3回	2人

花いっぱい運動



学校図書館ボランティア



4 今年度の成果と課題

<成 果>

本校では「図書ボランティア」による放課後の学校図書館開館を実施しています。職員会議や研修会がある日に開館を行い、読書・調べ学習の推進となるよう努めました。学校図書館のポップや飾りつけなどの装飾に力を入れていただきました。花いっぱい運動では、季節を感じさせる花々を花壇やプランターいっばいに咲かせ、花あふれる学校を目指しました。学校の教職員とボランティアが協力してきれいな花を咲かせることができました。

<課 題>

本校では、近年、学校応援団に関わる人材の確保が課題としてあげられます。今年度は、学校図書館ボランティアの方々が日数を多くしていただき、学校図書館に力を入れていきました。コロナ感染防止もあり、少しずつ日常に戻していくことが急務と考えています。しかし、学校応援団の人数が少なく、計画的に実施できなかったことが課題です。保護者が積極的に参加していただきました。生徒が来室しやすい学校図書館をとということで工夫いただいています。

今後も募集活動をしていきます。現行の花いっぱい運動に参加してくださる地域の方や学校図書館ボランティアに参加してくださる地域の皆様の力をお借りしながら応援団の活動の幅を広げるとともに、活動を活性化していきたいと思えます。

5 コーディネーターより

今年1月、日本の人口が1億2242万人で、前年より約80万人減少。昭和40年の調査開始以来最大の減少数になり、全ての都道府県が人口減少に。人口維持が焦点となり、少子化対策に取り組んできた。しかし、その努力が実を結ぶ可能性は低いと言われている。一方「人口減は恐れない」という楽観論もある。高齢化率を維持しながら、人口減少が加速する中での楽観論展開は困難であろう。解決のため移民を受け入れ有用な人材を選別するなどというが、根強い反対論もある。世の中のすべて「白か黒か、0か100か」で割り切れることにはならない。生は二極化思考ではなく、中途半端な数字が随所に垣間見られるのだ。ただし、明るい見通しもある。OECD主催の世界81か国・地域の15歳生徒を対象とした学習到達度調査PISAの昨年12月結果発表によれば、日本は数学的リテラシーで全体の5位、読解力は3位、科学的リテラシーは2位でした。3分野で前回調査より平均点が上昇。若者の年毎の向上が喜ばしいことですね。

年の瀬に、あれこれと散見したことが、世間を批判する精神が皆無ではいけない…。しかし必ずそのことに対して望みが持てる論点も必要である。また、励ましたくなるような肯定さを持つことも必要だ。「そう考えるのも悪くない」と感じてくれる人がいるのも良い。批判に終始せず、解決策を示し、要素を多く提供し場面を活性化させたいものである。的確な答えを得るためには、じっくり考え・論理的思考に学ぶ、といった道理にかなった正道に就くことである。

時折教室を参観するが、数度の指導要領改訂を経て、応用力重視の流れが定着しつつあるようだ。質が変わるだけでなく量も膨らむそうだが、生徒たちの検討を祈っている。

6 学校長より

本校の学校応援団は学校図書館のサポートと花いっぱい運動にご協力いただいております。本年度もコロナ禍の影響が残り、多くのボランティアの方々が参加できない状態でありました。花いっぱい運動もなかなか集まる機会に恵まれず、まだまだ工夫が必要だと思っています。学生ボランティアも含めて学校応援団の募集もさらに進めていく予定です。来年度も保護者や地域の皆様の力をお借りしながら、学校応援団の活動の広がりを願いつつ、学校運営に尽力してまいります。ご協力をよろしく願います。